

# 北海道師範塾 塾頭通信

## 「教師の道」

第716号 平成26年4月7日

### 就活中の学生の意識について（2）

前号では、「就活する上での武器」について考えてみました。

そこで今回は、「就活する上で学生が欠けていると思っている事」、「就活のネタにするために何か行動しているか」、という2点について考えてみたいと思います。

#### 質問2 次の選択肢の内あなたに欠けているものは何か

回 答	全 体	文系男子	理系男子	文系女子	理系女子
情報収集力	19.1	16.0	16.0	23.1	23.9
行動力	24.9	23.5	22.9	27.0	27.1
コミュニケーション能力	31.9	28.9	34.6	32.4	33.4
ストレス耐性	22.9	20.0	20.4	26.3	27.7
自分の長所をアピールする力	42.1	38.1	42.1	44.9	45.8
臨機応変に対応する力	19.2	16.1	16.2	23.7	22.5
友人関係の広いネットワーク	31.8	31.0	32.6	31.1	34.0
社会人になる為の心の準備	22.3	20.3	18.8	26.1	25.4
この中に欠けているものはない	3.5	4.9	4.1	2.0	2.1

まず、就活に関して「自分に欠けているもの」を聞いたところ、左表の様な答えが返って来ました。

この結果を見ると、文系・理系、男子・女子を問わず同じ傾向を示し

ています。つまり、学生たちは、第1に「自分をアピールする力」が不足しており、次いで「コミュニケーション能力」や「友人関係の広いネットワーク」が足りないと感じている様です。

就職試験は、極端な事をいえば市場(いちば)で労働者の売り買いをする様なものです。ですから、必要な人材を求める「買い手(企業側)」に対して、「売り手(学生や大学)」側としては如何に人材という商品(自分)を買い手に売り込むかというのが勝負の分かれ目です。そういう事からすると、「自分をアピールする力」が不足しているというのでは、そもそも勝負になりません。

自分は口下手だとか、あがり症だとかいいわけする人がいます。病的にあがり症という人がいる事は確かですが、私が見るところ、「自分をアピール出来ない」というのは、自分の力(セールスポイント)をちゃんと認識出来ていない人が多いということであり、その原因は、自己分析の不足にあるのではないかと考えています。

また、「コミュニケーション能力」や「友人関係の広いネットワーク」が足りないというのも、私には考え過ぎの様に感じられます。

学生の皆さんは「コミュニケーション能力」についてどの程度のレベルを想定しているのでしょうか。採用する側からすれば、飽くまでも組織人として行動出来るかを見ているのであり、それ以上でもそれ以下でもないと思います。学生の皆さん

が、例えば、職場で同僚と話をすることは難しそうだという意味で「コミュニケーション能力」に自信がないというのであれば、そもそも組織人になろうとする事自体無理という事になりはしないでしょうか。

「コミュニケーション能力」が足りない等と自分にプレッシャーをかける前に、「面接官の質問に対してしっかりと受け答え出来るだけの力があればいいんだ」と開き直るぐらいで丁度良いと思います。

また、「友人関係の広いネットワークを持っていない」と感じている学生の皆さんには、その様な事は気にする必要はないと申し上げて置きたいと思います。そんな事は、人生を豊かに生きて行く上でも、仕事を円滑に進める上でも、「友人関係は広いに越した事はない」という程度の話なのです。

大学時代に築いた友人関係は貴重だと思います。しかし、長い人生の中で見れば、大学卒業後の実社会の中で作られる人間関係が極めて重要で、影響力も大きいと感じています。

誰とでもすぐに友達になれるという人がいます。それは凄い才能だとは思いますが、私にはそんな真似はできません。ですから、出会った人と誠実にお付き合いする中で信頼関係を醸成する、というのが私のスタイルです。大事な事は、友人の数にあるのではないと私は思っています。

ところで、最近の就活では、ライン等を通じて学生同士が頻繁に就職試験に関する情報交換をしている様です。友人が多い程情報は沢山集まるのは当然で、友人が少ないのは就活に不利と感じるのも分からなくはありません。しかし、気を付けなければならない事は、ネットで飛び交う情報が本当に正確かどうかという事です。

就活は自分と会社との真剣勝負である以上、友人からの情報を鵜呑みにせず、直接会社を訪問したり、先輩の職場を尋ねたりする等して、自分の足を使い、自らの目と耳で必要な情報を得る努力をすべきです。

次に、「就活のネタにするために何か経験となる事をしたか」について聞いたところ、約7割の学生は実行していないと答えています。

採用面接では、「採用試験を受けるに当たって、何か取り組んで来た事はあるか」といった質問が良くなされます。

質問3 就活のネタにする為に何か経験となる事を実行したか

回答	全体	文系男子	理系男子	文系女子	理系女子
実行した	34.4	37.1	27.1	39.3	28.7
実行していない	65.6	62.9	72.9	60.7	71.3

こうした質問がなされるのは、試験官が受験者の社会性や人間性、更には計画性の有無等を知る手掛かりにしようとしているからに他なりません。

例えば、食品メーカーに就職を希望する学生が、消費者のニーズを体感するため飲食店でアルバイトしたとか、福祉施設での勤務を希望する学生が児童施設でボランティア活動をしたという様な事は、言葉は良くないですが当然「就活のネタ」に

はなるでしょう。学生からそういう説明を聞かされれば、「実際に体験してどうだったか」「そこから何を学んだか」聞きたくなります。

「就活に当たって欠けている」点が、「自分の長所をアピールする力」や「コミュニケーション能力」「情報収集力」等と認識しているのに、それを克服するための行動を起こしていない学生が7割近くもいるというのはどういう事でしょうか。

結局、就活は大変だといいいながら、その一方では、自分なりに戦略を立て、厳しい就職戦線で戦うための武器（セールスポイント等）を準備するといった事には消極的、という学生の姿が垣間見えます。

就活という名の厳しい戦いは、危機感だけでは乗り切れません。

（塾頭：吉田 洋一）